

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500613		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホームよしの		
所在地	徳島県阿波市吉野町柿原字二条146番地		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、緑に囲まれたゆったりとした環境の中、敷地内には四季折々の草花があり、目で見て、また一緒に手入れや水やり等の世話をすることで季節感を感じていただけるよう工夫している。近隣の幼稚園、小・中学校からの定期的な訪問、専門学生に加え、昨年より高校生の介護実習も受け入れ、地域における福祉の拠点となるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然に囲まれた環境に位置しており、前庭の畑では地域のボランティアとともに野菜や花を育てている。事業所では、家庭の延長として生活を送ることができるような支援を心がけている。利用者が収穫した野菜や近隣からのおすそ分けなどの季節の食材を活用している。職員は、音楽や書道、食事づくりなど、利用者の保有する力を活かすよう工夫している。地域の幼稚園や小・中学校、ボランティアの定期的な来訪も多い。また、事業所では中学生や専門学校生の福祉体験学習の受け入れを行ったり、地域住民の福祉に関する相談等に応じたりして、実践を通じて積み上げた事業所の力を地域に向けて発信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A	実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を理解し独自の理念を作っている。朝礼、ミーティング等機会ある毎に、話し合い、確認し理念を共有しケアに繋げている。	全職員で話し合い、地域密着型サービス事業所の社会的役割と意義を理解し、理念に反映させている。朝礼やミーティングなど、機会あるごとに話し合いと確認を行って実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の、幼稚園、小学校、中学校の入学式、卒業式、運動会に声を掛けてもらっている。地域の祭りにも神輿が立ち寄ってくれたり、ボランティアの方々が定期的に立ち寄ってくれ交流を図っている。	事業所として地域の幼稚園や小・中学校の行事へ参加している。定期的なボランティアの来訪があったり、近隣住民が菜園の栽培や収穫の手伝いをしてくれたりしており、双方向的に交流を図っている。また、事業所では高齢者や地域の福祉関係の相談にも応じるなど、地域住民の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幼稚園児との交流をもったり、小学校、中学校の体験実習を受け入れたり、地域の老人会の方を運営推進会議に来て頂き、高齢者の相談に応じたり、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回必ず運営推進会議を開催し、サービスの実施状況、評価への取組等について報告や話し合いを行っている。参加者から出された意見、情報をサービスの質の向上に活かしている。会議録は廊下に掲示し家族の方にも見て頂いている。	運営推進会議では、サービスの内容や事業所の現状、評価への取り組みなどを報告し意見をもらっている。出された意見や情報は職員間で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。会議録は事業所内へ掲示したり、全職員に回覧し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて話し合う機会を設けている。担当者から情報を頂いたり、相談にのってもらおう等、協力関係を築いている。	市担当者とはなるべく話しあう機会を設け、利用者の暮らしぶりや事業所の考え方、取り組み状況等を伝えている。担当者から情報を得たり、運営やサービス等の相談にのってもらったりして協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の議題に年1回は必ず取り入れ職員全員が理解している。	年1回、事業所で“身体拘束をしないケアに関する研修会”を実施している。全職員が介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。また、日ごろのケアのなかで気づいたことは、ミーティングなどを開催し、そのつど話しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングでも学ぶ機会を設け職員の意識の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している人もいらっしゃる為、担当者の方が1カ月に1回来訪していただき、話す機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、文書でも十分に説明し納得して頂いている。改定時には口頭での説明はもちろん、文章で説明し、同署を頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見、要望を気兼ねなく言って頂ける様家族とのコミュニケーションを十分に取るよう努めている。家族からの苦情、ご意見は報告書に記載し、第三者委員に報告、職員間で話し合い改善している。	日ごろから、職員は利用者へ積極的に話しかけ、意見や要望の把握に努めている。また、家族の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や苦情等は、報告書に記載したのち、速やかに第三者委員へ報告を行って検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の職務の中で職員の意見に耳を傾ける様に心がけている。だされた意見は毎日のミーティング等で即話し合い改善している。	代表者や管理者は、日ごろの職務を通じて職員の意見や提案に耳を傾けている。出された意見や要望はミーティングや介護部会等の機会に話しあい、運営面に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の意見を聞き、個々の個性を尊重しストレス解消にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の資格、勤務年数に応じた研修会にも参加しその人に合ったスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会にも参加し、他事業所と意見交換を図っている。また、同一法人の事業所と常に意見交換し日頃のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から、これまでの状況、要望を十分に聞き取り、利用者、家族の望んでいるサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合って要望を十分に理解するよう努め家族とのコミュニケーションをとり、家族の思いを日頃のケアに反映できる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分話し合い、本人の状況に応じたサービスを提供できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護している、と言う意識は持たず、利用者と職員、お互いの人権を尊重し良い関係を築く事ができる様取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、家族に利用者の状況を報告し、家族の思い、方向性を確認し、協力関係を築き取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院(主治医)、理、美容院、買い物等は入所以前に利用していた馴染みのある所を利用している。また、ボランティアや地域の方々の来訪があり地域の行事にも参加している。	利用者が以前から活用していた馴染みの理・美容院や商店を利用し続けることができるよう支援している。また、家族と相談したうえで、お祭りなどの地元行事への参加や墓参り、帰宅等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所以前の知り合い、関係を把握しユニットや居室を決めている。また、ADLも考えユニットにする事により利用者同士の良い関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価 A		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取り、状況を聞き、事業所に出来る事があれば支援している。また、それを相手方にもお話している。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活環境を把握し、今またはこれからの生活の希望や思いを汲み取れる様関わっている。利用者一人一人の力を活かせるよう努めている。	日ごろから、職員は、利用者との関わりのなかで積極的にコミュニケーションを図り、希望や思いを汲みとるよう努めている。利用者一人ひとりのこれまでの生活環境や暮らし方、サービスの利用状況等を把握し、利用者のもてる力を活かすことができるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から話を聞いたり、以前関わっていた事業所から聞き、生活歴の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は毎日の記録と、ミーティング等を密に取り報告、連絡、相談により現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当職員を決め本人、家族との良い関係を保ち意見、要望を話やすい関係を築いている。家族の意見を聞く事により、現状に応じたケア計画作成に努めている。	事業所では、職員を担当制にすることで、日ごろから利用者や家族の意見を積極的に聞くことができるようにしている。ミーティングやケアカンファレンス等の機会に話し合い、それぞれの意見やアイデアを踏まえて、利用者の現状に応じた介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には些細な事柄も記録している。それを職員は毎日確認し状態の変化を確認している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の現状に即したサービスを提供している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと情報交換を行い相談しやすい関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する主治医、医療機関の受診を支援している。利用者、家族の希望や症状より家族にも同行して頂いている。医師との連絡も密に取り体調管理に努めている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族と職員間で相談を行って通院支援へと繋げており、日ごろの体調の変化等も医師に伝えている。家族や医師と密に連絡をとりあい、適切な体調の管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約している。週3回訪問看護のナースが来訪により、細かい相談や助言を受け、日頃の体調の変化に気づく様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との連絡を密に取っている。入院時には定期的に利用者を見舞ったり、電話で状態を聞かせてもらい、状況に応じた対応が速やかに行える様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に利用者、家族に十分な説明を行い、重度化、終末期のケアについて取り組んでいる。職員間でも十分な話し合い、知識を持ち、取り組んでいる。	入居時の段階で、重度化や終末期のあり方について、事業所で対応できることを説明している。体調に変化が生じた際には、そのつど本人や家族の意向を把握し、医師や関係者、職員間で話しあって連携を図りつつ、本人が納得して最期を迎えることができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員が救命救急講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。夜間の訓練も行っている。地域の消防団の協力も得て行っている。訓練後には、消防士と共に反省会を行い細かい指摘を頂いている。	災害対策に係るマニュアルを作成し、年2回、日中と夜間に防災訓練を実施している。地域の消防団の協力を得て、通報や避難、初期消火訓練等を実施している。訓練後には、消防士の参加も得て反省会を行っている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所で、食料や物品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A	実践状況	実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員個々が言葉かけや尊厳ある行動がとれる様心がけている。職員サイドの支援にならない様努めている。	利用者のプライバシーに配慮した言葉かけや尊厳保持のあり方について、ミーティングや研修時に話しあっている。着替え時の衣類選択等、自己決定しやすいような言葉かけに留意し、利用者の気持ちを大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の状況に合わせ、本人の思いや希望を引き出せる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がその人らしく生活できる様、その人に合った生活ペースを保てる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望する、理、美容院へ行っている。また、衣類に関しても利用者本人が着たい物が買える様買い物と一緒に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表の決まったメニューだけではなく、利用者の好みのメニューも取り入れている。利用者一人一人の力量に応じて利用者と職員と一緒に調理や片付けを楽しんでいる。	献立表に基づき、昼食と夕食は隣接の事業所で調理しているが、朝食や汁物、酢の物等は事業所でつくっている。地域住民から差し入れをもらったり、菜園で栽培した野菜を利用者の希望等に応じてメニューに含めたりしている。利用者一人ひとりの力量に応じ、利用者と職員とともに調理や片づけを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の個別記録に毎食の食事摂取量、水分摂取量を記入しチェックし体調の変化に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎直後、利用者一人一人に合った口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			A	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録に排泄に関する事も記録し排泄リズム、パターンを把握している。利用者、個々に応じたタイミングで誘導し支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの力や習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し、個々の状態に応じた十分な水分補給、食事摂取量、食事の栄養成分、適度な運動量を支援する事で円滑な排泄介助に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、9時～21時迄の間、利用者の希望に添った入浴ができる様に支援している。入浴を嫌がったり、体調により希望に添えない方はその人の体調やタイミングを見計らい支援している。	利用者の希望や体調に応じて入浴することのできる体制を構築している。入浴を拒む方には、声かけやタイミングを見計らい入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々が毎日の体調に合わせて生活できる様支援している。起床、就寝時間も個々に合わせ支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴や現在服薬している薬は担当職員が特に把握している。また、全職員が把握し、すぐ確認できる様に、個々のファイルに処方箋を綴っている。服薬が変更になった時には、日誌に記録し全職員が確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、趣味等を把握し、好きな事、得意な事で力を発揮し生活に張りを持って頂ける様に支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの要望に応じ、近所への買い物、気分転換の外出等の支援を行っている。また、墓参りや自宅を見に帰る等の支援も行っている。	天気の良い日には、車椅子の方もともに散歩を楽しんだり、神社へお参りに出かけたりしている。家族やボランティアの協力を得て、花見や菊人形、紅葉狩りなど、普段は出かけることの困難な場所にも出かけている。家族や職員の付きそいにより、お墓参りや友人宅への訪問、買い物、外食等を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 A		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を本人が希望する場合には、家族の了解を得たうえで少額の入った財布を管理して頂いている。外部の商店の出張販売で買い物をしたり、自動販売機で好みの物を買ったりしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話を使って頂いている。自分で電話をかける事の困難な利用者の方には職員がサポートし希望に添える様にしている。ファックス、形態メールにもサポートしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る等、季節に合った環境づくりに心がけている。	ホールや廊下等の共用空間に季節の花を活けている。壁面には、利用者の書いた書道や貼り絵を飾っており、季節感に配慮した環境づくりに努めている。利用者は、食事づくりの手伝いや洗濯物たたみ等を談笑しながら行っており、思い思いの場所でゆったりと過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの共同スペースである食堂(ホール)もテーブルと置のスペースがあり個々か思い思いに過ごせる様支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持って来て頂き本人が過ごしやすく、心休まる、居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	利用者は、居室に使い慣れた家具や寝具、時計、テレビ等を持ち込んでいる。家族の写真や本人の作品等を飾っている方もいる。利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計、カレンダー、トイレ、浴室、居室の表示等利用者がわかりやすいように配慮している。また、居室等がわかりにくい方には、家族の了解を得て、目印をつけ生活しやすい様支援している。			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を理解し独自の理念を作っている。朝礼、ミーティング等機会ある毎に、話し合い、確認し理念を共有しケアに繋げている。	全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を理解し独自の理念を作っている。朝礼、ミーティング等機会ある毎に、話し合い、確認し理念を共有しケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の、幼稚園、小学校、中学校の入学式、卒業式、運動会に声を掛けてもらっている。地域の祭りにも神輿が立ち寄ってくれたり、ボランティアの方々が定期的に立ち寄ってくれ交流を図っている。	地域の、幼稚園、小学校、中学校の入学式、卒業式、運動会に声を掛けてもらっている。地域の祭りにも神輿が立ち寄ってくれたり、ボランティアの方々が定期的に立ち寄ってくれ交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幼稚園児との交流をもったり、小学校、中学校の体験実習を受け入れたり、地域の老人会の方を運営推進会議に来て頂き、高齢者の相談に応じたり、認知症の理解に努めている。	幼稚園児との交流をもったり、小学校、中学校の体験実習を受け入れたり、地域の老人会の方を運営推進会議に来て頂き、高齢者の相談に応じたり、認知症の理解に努めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回必ず運営推進会議を開催し、サービスの実施状況、評価への取組等について報告や話し合いを行っている。参加者から出された意見、情報をサービスの質の向上に活かしている。会議録は廊下に掲示し家族の方にも見て頂いている。	2か月に1回必ず運営推進会議を開催し、サービスの実施状況、評価への取組等について報告や話し合いを行っている。参加者から出された意見、情報をサービスの質の向上に活かしている。会議録は廊下に掲示し家族の方にも見て頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて話し合う機会を設けている。担当者から情報を頂いたり、相談にのってもらう等、協力関係を築いている。	市の担当者とは必要に応じて話し合う機会を設けている。担当者から情報を頂いたり、相談にのってもらう等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の議題に年1回は必ず取り入れ職員全員が理解している。	研修会の議題に年1回は必ず取り入れ職員全員が理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングでも学ぶ機会を設け職員の意識の統一を図っている。	勉強会やミーティングでも学ぶ機会を設け職員の意識の統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している人もいらっしゃる為、担当者の方が1カ月に1回来訪していただき、話す機会がある。	現在、制度を利用している人もいらっしゃる為、担当者の方が1カ月に1回来訪していただき、話す機会がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、文書でも十分に説明し納得して頂いている。改定時には口頭での説明はもちろん、文章で説明し、同署を頂く様にしている。	契約時、解約時には、文書でも十分に説明し納得して頂いている。改定時には口頭での説明はもちろん、文章で説明し、同署を頂く様にしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見、要望を気兼ねなく言って頂ける様家族とのコミュニケーションを十分に取るよう努めている。家族からの苦情、ご意見は報告書に記載し、第三者委員に報告、職員間で話し合い改善している。	家族の来訪時には意見、要望を気兼ねなく言って頂ける様家族とのコミュニケーションを十分に取るよう努めている。家族からの苦情、ご意見は報告書に記載し、第三者委員に報告、職員間で話し合い改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の職務の中で職員の意見に耳を傾ける様に心がけている。だされた意見は毎日のミーティング等で即話し合い改善している。	毎日の職務の中で職員の意見に耳を傾ける様に心がけている。だされた意見は毎日のミーティング等で即話し合い改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の意見を聞き、個々の個性を尊重しストレス解消にも努めている。	職員一人一人の意見を聞き、個々の個性を尊重しストレス解消にも努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の資格、勤務年数に応じた研修会にも参加しその人に合ったスキルアップに努めている。	職員一人一人の資格、勤務年数に応じた研修会にも参加しその人に合ったスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会にも参加し、他事業所と意見交換を図っている。また、同一法人の事業所と常に意見交換し日頃のケアに活かしている。	グループホーム部会にも参加し、他事業所と意見交換を図っている。また、同一法人の事業所と常に意見交換し日頃のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から、これまでの状況、要望を十分に聞き取り、利用者、家族の望んでいるサービスの提供に努めている。	本人や家族から、これまでの状況、要望を十分に聞き取り、利用者、家族の望んでいるサービスの提供に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合って要望を十分に理解するよう努め家族とのコミュニケーションをとり、家族の思いを日頃のケアに反映できる様努めている。	家族と話し合って要望を十分に理解するよう努め家族とのコミュニケーションをとり、家族の思いを日頃のケアに反映できる様努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分話し合い、本人の状況に応じたサービスを提供できる様努めている。	本人、家族と十分話し合い、本人の状況に応じたサービスを提供できる様努めている。	
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護している、と言う意識は持たず、利用者と職員、お互いの人権を尊重し良い関係を築く事ができる様取り組んでいる。	職員は介護している、と言う意識は持たず、利用者と職員、お互いの人権を尊重し良い関係を築く事ができる様取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、家族に利用者の状況を報告し、家族の思い、方向性を確認し、協力関係を築き取り組んでいる。	随時、家族に利用者の状況を報告し、家族の思い、方向性を確認し、協力関係を築き取り組んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院(主治医)、理、美容院、買い物等は入所以前に利用していた馴染みのある所を利用している。また、ボランティアや地域の方々の来訪があり地域の行事にも参加している。	病院(主治医)、理、美容院、買い物等は入所以前に利用していた馴染みのある所を利用している。また、ボランティアや地域の方々の来訪があり地域の行事にも参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所以前の知り合い、関係を把握しユニットや居室を決めている。また、ADLも考えユニットにする事により利用者同士の良い関係を築いている。	入所以前の知り合い、関係を把握しユニットや居室を決めている。また、ADLも考えユニットにする事により利用者同士の良い関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取り、状況を聞き、事業所に出来る事があれば支援している。また、それを相手方にもお話している。	連絡を取り、状況を聞き、事業所に出来る事があれば支援している。また、それを相手方にもお話している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活環境を把握し、今またはこれからの生活の希望や思いを汲み取れる様関わっている。利用者一人一人の力を活かせるよう努めている。	入所前の生活環境を把握し、今またはこれからの生活の希望や思いを汲み取れる様関わっている。利用者一人一人の力を活かせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から話を聞いたり、以前関わっていた事業所から聞き、生活歴の把握に努めている。	利用者、家族から話を聞いたり、以前関わっていた事業所から聞き、生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は毎日の記録と、ミーティング等を密に取り報告、連絡、相談により現状の把握に努めている。	職員は毎日の記録と、ミーティング等を密に取り報告、連絡、相談により現状の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当職員を決め本人、家族との良い関係を保ち意見、要望を話やすい関係を築いている。家族の意見を聞く事により、現状に応じたケア計画作成に努めている。	利用者一人一人に担当職員を決め本人、家族との良い関係を保ち意見、要望を話やすい関係を築いている。家族の意見を聞く事により、現状に応じたケア計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には些細な事柄も記録している。それを職員は毎日確認し状態の変化を確認している。	個別記録には些細な事柄も記録している。それを職員は毎日確認し状態の変化を確認している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の現状に即したサービスを提供している。	本人、家族の現状に即したサービスを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと情報交換を行い相談しやすい関係を築いている。	地域包括支援センターと情報交換を行い相談しやすい関係を築いている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する主治医、医療機関の受診を支援している。利用者、家族の希望や症状しより家族にも同行して頂いている。医師との連絡も密に取り体調管理に努めている。	利用者、家族の希望する主治医、医療機関の受診を支援している。利用者、家族の希望や症状しより家族にも同行して頂いている。医師との連絡も密に取り体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約している。週3回訪問看護のナースが来訪により、細かい相談や助言を受け、日頃の体調の変化に気づく様努めている。	訪問看護ステーションと契約している。週3回訪問看護のナースが来訪により、細かい相談や助言を受け、日頃の体調の変化に気づく様努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との連絡を密に取っている。入院時には定期的に利用者を見舞ったり、電話で状態を聞かせてもらい、状況に応じた対応が速やかに行える様努めている。	医療関係者との連絡を密に取っている。入院時には定期的に利用者を見舞ったり、電話で状態を聞かせてもらい、状況に応じた対応が速やかに行える様努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に利用者、家族に十分な説明を行い、重度化、終末期のケアについて取り組んでいる。職員間でも十分な話し合い、知識を持ち、取り組んでいる。	入所時に利用者、家族に十分な説明を行い、重度化、終末期のケアについて取り組んでいる。職員間でも十分な話し合い、知識を持ち、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員が救命救急講習を受講している。	定期的に全職員が救命救急講習を受講している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。夜間の訓練も行っている。地域の消防団の協力も得て行っている。訓練後には、消防士と共に反省会を行い細かい指摘を頂いている。	年2回の防災訓練を行っている。夜間の訓練も行っている。地域の消防団の協力も得て行っている。訓練後には、消防士と共に反省会を行い細かい指摘を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員個々が言葉がけや尊厳ある行動がとれる様心がけている。職員サイドの支援にならない様努めている。	職員個々が言葉がけや尊厳ある行動がとれる様心がけている。職員サイドの支援にならない様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の状況に合わせ、本人の思いや希望を引き出せる支援に努めている。	利用者一人一人の状況に合わせ、本人の思いや希望を引き出せる支援に努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がその人らしく生活できる様、その人に合った生活ペースを保てる様支援している。	利用者一人一人がその人らしく生活できる様、その人に合った生活ペースを保てる様支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望する、理、美容院へ行っている。また、衣類に関しても利用者本人が着たい物が見える様買い物と一緒に出かけている。	利用者、家族の希望する、理、美容院へ行っている。また、衣類に関しても利用者本人が着たい物が見える様買い物と一緒に出かけている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表の決まったメニューだけではなく、利用者の好みのメニューも取り入れている。利用者一人一人の力量に応じて利用者と職員と一緒に調理や片付けを楽しんでいる。	献立表の決まったメニューだけではなく、利用者の好みのメニューも取り入れている。利用者一人一人の力量に応じて利用者と職員と一緒に調理や片付けを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の個別記録に毎食の食事摂取量、水分摂取量を記入しチェックし体調の変化に気を付けている。	毎日の個別記録に毎食の食事摂取量、水分摂取量を記入しチェックし体調の変化に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎直後、利用者一人一人に合った口腔ケアを支援している。	毎直後、利用者一人一人に合った口腔ケアを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録に排泄に関する事も記録し排泄リズム、パターンを把握している。利用者、個々に応じたタイミングで誘導し支援している。	個別記録に排泄に関する事も記録し排泄リズム、パターンを把握している。利用者、個々に応じたタイミングで誘導し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し、個々の状態に応じた十分な水分補給、食事摂取量、食事の栄養成分、適度な運動量を支援する事で円滑な排泄介助に努めている。	一人一人の排泄パターンを把握し、個々の状態に応じた十分な水分補給、食事摂取量、食事の栄養成分、適度な運動量を支援する事で円滑な排泄介助に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、9時～21時迄の間、利用者の希望に添った入浴ができる様に支援している。入浴を嫌がったり、体調により希望に添えない方はその人の体調やタイミングを見計らい支援している。	毎日、9時～21時迄の間、利用者の希望に添った入浴ができる様に支援している。入浴を嫌がったり、体調により希望に添えない方はその人の体調やタイミングを見計らい支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々が毎日の体調に合わせて生活できる様支援している。起床、就寝時間も個々に合わせ支援している。	利用者個々が毎日の体調に合わせて生活できる様支援している。起床、就寝時間も個々に合わせ支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴や現在服薬している薬は担当職員が特に把握している。また、全職員が把握し、すぐ確認できる様に、個々のファイルに処方箋を綴っている。服薬が変更になった時には、日誌に記録し全職員が確認している。	個々の既往歴や現在服薬している薬は担当職員が特に把握している。また、全職員が把握し、すぐ確認できる様に、個々のファイルに処方箋を綴っている。服薬が変更になった時には、日誌に記録し全職員が確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、趣味等を把握し、好きな事、得意な事で力を発揮し生活に張りを持って頂ける様に支援している。	一人一人の生活歴、趣味等を把握し、好きな事、得意な事で力を発揮し生活に張りを持って頂ける様に支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの要望に応じ、近所への買い物、気分転換の外出等の支援を行っている。また、墓参りや自宅を見に帰る等の支援も行っている。	利用者一人ひとりの要望に応じ、近所への買い物、気分転換の外出等の支援を行っている。また、墓参りや自宅を見に帰る等の支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を本人が希望する場合には、家族の了解を得たうえで少額の入った財布を管理して頂いている。外部の商店の出張販売で買い物をしたり、自動販売機で好みの物を買ったりしている。	お金の管理を本人が希望する場合には、家族の了解を得たうえで少額の入った財布を管理して頂いている。外部の商店の出張販売で買い物をしたり、自動販売機で好みの物を買ったりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話を使って頂いている。自分で電話をかける事の困難な利用者の方には職員がサポートし希望に添える様にしている。ファックス、形態メールにもサポートしている。	希望に応じ電話を使って頂いている。自分で電話をかける事の困難な利用者の方には職員がサポートし希望に添える様にしている。ファックス、形態メールにもサポートしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る等、季節に合った環境づくりに心がけている。	季節の花を飾る等、季節に合った環境づくりに心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの共同スペースである食堂(ホール)もテーブルと畳のスペースがあり個々か思い思いに過ごせる様支援している。	ユニットの共同スペースである食堂(ホール)もテーブルと畳のスペースがあり個々か思い思いに過ごせる様支援している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持って来て頂き本人が過ごしやすく、心休まる、居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	使い慣れた家具や寝具を持って来て頂き本人が過ごしやすく、心休まる、居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計、カレンダー、トイレ、浴室、居室の表示等利用者がわかりやすいように配慮している。また、居室等がわかりにくい方には、家族の了解を得て、目印をつけ生活しやすい様支援している。	時計、カレンダー、トイレ、浴室、居室の表示等利用者がわかりやすいように配慮している。また、居室等がわかりにくい方には、家族の了解を得て、目印をつけ生活しやすい様支援している。	